

# 令和8年度 学校経営方針の重点目標

枚方市教育委員会の令和8年度学校園管理運営指針における**共通項目**を以下の主要な重点目標に整理します。

学校教育目標 **目の前にいる子どもと向き合う**

「自己実現」…自分のよさに気づく(自己理解) **対自分**

「協働」…集団生活の中で自分の役割を担う **対他者**

## 1. 個別支援と学級づくり～児童が「ここにいていいんだ」と思える学校・学級づくり～

### ユニバーサルデザインによる学級経営の刷新

通常学級において「全員に効果のある最大公約数的支援(ユニバーサルデザイン)」を最優先で構築し、安定した授業基盤を作るための実践的アプローチを実施する。

#### ① 運営の基本原則：「全体から個別へ」

通常学級において、初期段階から過度な個別配慮を優先すると集団の維持が困難になるリスクがあります。まずは「安全・安心」な環境を土台とし、全員が守るべきルーティンや環境調整を標準化することで、結果的に支援が必要な子も含めた全員の利益を守るという経営をします。

#### ② 「静かを創る」環境・刺激マネジメント

騒がしさを単なる「荒れ」と捉えず、参加の熱量をコントロールする技術が求められます。

**刺激の削減**：特に興奮しやすい英語や音楽などの科目では、声量管理(小声スピーキング)や活動形式の工夫、淡々とした進行により、視覚・聴覚刺激をコントロールします。

**静寂の育成**：「切り替え5秒」の徹底や、30秒から段階的に伸ばす静寂ターンの導入により、児童自身が「静かが気持ちいい」と感じる体験を積み重ねます。

#### ③ 授業設計と参加ルールの明確化

混乱の多くは「ルールの曖昧さ」から生じます。

**参加方式の事前宣言**：自由発言なのか、指名制なのか、沈黙すべき時なのかを明確にします。

**覚醒レベルの調整**：授業冒頭に音読や軽い身体活動を入れて覚醒を上げ、難所の前後には沈静化ルーティンを挟むなど、授業内にメリハリ(強度管理)をつけます。

#### ④ 特性理解に基づいた予防的指導

ADHD、ASD、愛着障害、HSCなどの特性を持つ児童は刺激に敏感です。

**先回りの環境調整**：居眠りや離脱を責めるのではなく、座席配置、配布動線、視線誘導などの環境要因を再構築し、予防的に対応します。

**ルーティンの明文化**：片付けや配布手順を固定化・視覚化し、教師の指示待ちや迷いを減らします。

#### ⑤ 組織的な振り返りと改善

教員のマンパワーには限界があることを前提に、ICT(ロイロノート等)や観察を活用して、自身の介入タイミングやルールの効果を短サイクルで検証し、実践をアップデートし続ける体制を構築します。

## 2. 学習の基盤となる資質・能力の向上

**個別最適な学び**：一人ひとりの良さを伸ばし、学びのスタイル（誰と、何を、どのように学ぶか）を子ども自身が自己決定できる教育を推進します。

**協働的な学び**：仲間との対話を通じて自分の考えを見直したり、新しい考えに気づいたりする場面を大切にします。

**主体的・対話的で深い学び**：学習指導要領の趣旨を踏まえ、これらの学びを一体的に充実させることで授業改善を図ります。

### ICTの文房具としての活用と情報能力の育成

**○日常的な活用**：端末を「文房具」として効果的に活用し、授業だけでなく家庭学習との連続性も重視します。

**○資質・能力の育成**：情報活用能力やプログラミング的思考、情報モラル（デジタル・シティズンシップ）の育成を体系的に進めます。**低学年はアナログとデジタルの活用**

### ・校内研究 研究テーマ

『一人ひとりの良さを伸ばし、自己決定できる教育の推進  
～目の前にいる子どもたちを授業でどう育てるのか～』

令和8年度の研究教科も全教科で実施する。講師：札幌国際大学 准教授 安井 政樹氏

●視聴覚・放送教育研究会全国大会 11月6日（金）

## 3. 社会とつながる学習活動の推進～実社会の課題に向き合い、自ら考えて解決する力を育む取組～

**課題解決型学習（PBL）**：地域や企業の協力を得ながら、答えのない問いに対して主体的に解決策を提案する学びを推進します。課題解決型学習（PBL）に取り組む。

## 4. 確かな学力を育成するための学校体制

○すくすくウォッチ・全国学力・学習状況調査の分析

○各学年の学力を収集・分析を実施する。

○学力調査分析と探究学習の高度化

全国学テ分析を「授業づくり」に直結させる

6年生で行った過去問分析の結果、正答率が低かった「記述問題」や「資料活用」の要素を、6年生の探究学習の発表資料作成プロセスに組み込む。

## 5. 体力づくりの取組の推進

体育授業で児童の運動量を十分確保する

○委員会活動による「運動の日常化」の継続・「遊びのサブスク（定期提供）」の継続

### ①体育委員会が企画するイベント

単発で終わらせず、月間・学期ごとのカレンダーとして掲示し、「次は何があるか」と子どもたちがワクワクして待てる状態を維持する。

### ③ 多様な「運動」の定義

激しい運動だけでなく、ストレッチやダンス、タグ遊びなど、運動が苦手な子も「楽しい」と感じられる選択肢を委員会に提案させ、参加のハードルを下げ続ける。児童が自分で考えたり決めたりする場面を設定するとともにキャリア形成のための振り返りを実施する。

## 6. 食育

### 「食育」を日常の学びに繋げる改善策

#### ①給食時間との連動（アウトプット化）

栄養教諭の授業を受けた後、その内容を「給食の献立紹介（放送や掲示）」に児童が自分たちの言葉で反映させる仕組みを作る。教わった知識を誰かに伝えることで、理解を深化させる。

#### ②「食×他教科」のクロスカリキュラム

理科（体のつくり）や社会（産地）、探究学習の中で、栄養教諭が教えた内容を引用し、「あの時の話とつながっているね」と繰り返し意識させる。

#### ③「残菜調査」の結果共有と改善議論

単に「食べよう」と促すだけでなく、残食率などのデータを提示し、「どうすれば美味しく、大切に食べられるか」を子どもたちに議論（子ども主体の活動）させる。

## 7. 特別活動の特質を踏まえた資質・能力の育成

### ・キャリア・パスポートの「形骸化」を防ぐ改善策

#### ①「書く」から「対話する」への転換

ただ記録を書くだけでなく、書いた内容をもとにペアやグループで「自分たちができるようになったこと」を自慢し合う時間をセットにする。他者から認められることで、初めて自分の成長を客観視できる。

#### ②「過去の自分」との再会を演出

学期末に、1学期前や1年前の自分の記述を読み返す時間を意図的に確保する。「あの時はこうだったけど、今はこうだね」と、自分自身の変化を可視化・言語化させる。

#### ③教師の「価値付け」コメントの強化

「よく書きました」という評価ではなく、「この1ヶ月で〇〇ができるようになったのが文章から伝わるよ」といった、具体的変化を承認する一言を添える。

### ・渚西中学校区 キャリア教育 Grand Designの活用

## 8. 服務規律の徹底・・・毎月の職員会議や夕礼で服務規律に関する研修や指導を行う。

## 9. 業務改善と意識改革の推進

質の高い教育を継続するために、教職員の勤務環境を改善する

**業務改善**：ICTの活用による事務軽減や、校務分掌の見直し、長時間勤務の縮減を組織的に進めます。

**組織風土**：教職員が互いに学び合い、心理的安全性が確保された職場環境を醸成し、チーム学校としての機能を高めます。

## 10. 授業改善

### ①「自分の考えを深める・広げる」ための改善策

#### 「振り返り」の構造化と共有

授業の終末5分間に、単なる感想ではなく「友だちの〇〇さんの意見を聞いて、自分の考えがどう変わったか」を言語化する時間を設ける。

#### シンキングツールの日常化

ベン図やフィッシュボーン図などの「思考を可視化するツール」を、特定の授業だけでなく日常的に活用する。視覚化することで、自分の考えが「広がった」実感を可視化させる。

## 「問い」の質の転換

教師の問いかけを「正解を求める問い」から「正解が一つではない問い（オープクエスチョン）」へシフトし、子どもたちが納得解を導き出すプロセスを重視する。

### ④ 「自分に合った学び方を選ぶ」ための改善策

#### ○「学びの選択肢」のグラデーション化

「一人で黙々と解く」「ペアで相談しながら進める」「先生とヒントを確認する」といったブース（学習コーナー）を教室内に設定し、物理的に選択しやすい環境を作る。

#### ○自由進度学習の完全連動

解説動画や類題演習を「自分の苦手度合い」に合わせて子どもが自律的に選ぶ時間を組み込む。

#### ○「なぜそれを選んだか」のメタ認知指導

「今は自信がないから教科書を見ながらやる」「力試しをしたいから応用問題からやる」といった、選択の理由を自覚させる声掛けを行う。

## 11. 「ともに学び、ともに育つ」授業づくり・集団づくりの推進

### 多様性を認め合い、誰一人取り残さない教育環境づくり

○インクルーシブ教育：障がいの有無に関わらず、違いを認め合い、共生していく心を育みます。

○合理的配慮とユニバーサルデザイン：個々の教育的ニーズを把握し、適切な配慮を提供するとともに、全員に分かりやすい授業づくり（ユニバーサルデザイン）に取り組みます。

○特別支援の視点を「全員のスタンダード」に

「全員にとって分かりやすい授業は、特別な支援が必要な子にとっても分かりやすい」というユニバーサルデザイン（UD）の視点を授業案に組み込む。

4月16日（木）児童理解研修 桃山学院大学 講師：松久教授

## 12. いじめ・不登校児童の支援・「未然防止」を強化する改善策

### ① 「予兆（サイン）」の共有システムの構築

「欠席が目立ち始めてから」動くのではなく、「最近、朝の挨拶の声が小さい」「休み時間に一人であることが増えた」といった、全職員が気づく「小さなサイン」を共有する1分ミーティングを学年単位で実施する。

### ② 「子ども主体の未然防止活動」の導入

教員側だけの対策ではなく、児童会などで「みんなが安心して過ごせる学校にするには？」というテーマで話し合わせる。子どもたちが自ら決めたルール（例：ふわふわ言葉キャンペーンなど）を支援する。これが「全職員での協働」をさらに強固にさせる。

### ③ サプリルームと教室の「グラデーション支援」

サプリルームを「完全に教室と切り離された場所」にせず、教室から「15分だけサプリルームで心を整えて戻る」といった、短時間の利用（セルフケア）を認める。これにより、不登校の深刻化を防ぐ。

### ④ クラスの人間関係を把握し、未然防止・早期発見

○組織的な児童の見取りと「可視化」による現状把握

いじめ・不登校のいずれも、個人の経験に頼らず、組織として児童の状況を把握することが共通のルールです。

### ⑤ 心のサインの可視化

1学期は特にクラスの児童を丁寧な見取り、分析をする。

例えば・・・休み時間はどこで・誰と・何をしているかなどまで。

1人1台端末やアプリ（「ぽーち」等）を活用し、児童が発する心のサインを可視化することで、日頃から状況を把握し、組織として見逃さない体制を構築します。

#### ⑥アセスメントの実施

アンケート調査やスクリーニング（学期に1回以上など）を行い、客観的なデータに基づいて児童の状況を丁寧に分析し、きめ細かな指導につなげる。

#### ⑦未然防止と早期発見・早期対応の徹底

「小さな芽」の段階で対応を開始することが、深刻化を防ぐための共通項です。

- 「小さな芽」を見逃さない：日常の人権教育を通じて、いじめや差別の小さな兆候を見逃さない人権感覚を養う。
- 機を逃さない対応：不登校の兆しや欠席の兆候を把握した場合は、機を逃さず家庭訪問を行ったり、ICTを活用してつながりを維持したりするなど、迅速な初期対応を図る。

#### ⑧多職種・専門家による「チーム学校」での支援

担任一人が抱え込むのではなく、専門家と連携した組織的対応が求められている。

- 専門家との協働：スクールカウンセラー（SC）やスクールソーシャルワーカー（SSW）、スクールロイヤー等の専門家を交えた「ケース会議」を実施し、多角的な視点から方針を決定します。
- 校内委員会の活用：「学校いじめ防止対策委員会」や「ケース会議」を機能させ、情報の共有と組織的な対応を可視化（見える化）します。

#### ⑨保護者対応における「傾聴」と信頼関係の構築

- 真摯な傾聴：保護者からの相談があった場合は、真摯に向き合い、話を傾聴し、寄り添いながら対応すること
- 迅速な共有と説明：事実関係を把握した際は、その日のうちに迅速に保護者に連絡し、方針を丁寧に説明することで、学校・家庭間の信頼関係を構築します。

#### ⑩安心・安全な集団づくり（未然防止）

そもそも問題が起こりにくい、あるいは早期に解消できる土壌づくりが共通の基盤です。

- 心理的安全性の確保：誰もが安心して自分の考えを表現できる「心理的安全性の高い学校づくり」を推進し、自他共に認め合える人権感覚を醸成します。
- 多様性の尊重：障がいのある児童やルーツが異なる児童等、一人ひとりの特性を踏まえた支援を組織的にを行い、いじめに向かわない集団づくりを行います。

#### ⑪子どもの意見を「見える化」する仕組み

いじめ予防や不登校対策において、児童会や学級会で出た「もっとこうしてほしい」という意見に対し、学校として「これは採用した」「これは検討中」とフィードバックを掲示する。「自分たちの声が学校を変える」という実感が、さらなる安心感を生みます今年度も児童主体のクラブや委員会活動、行事の取り組みを継続して取り入れていく。

### 13. 地域とともに歩む学校づくり（コミュニティ・スクール）

学校・家庭・地域が一体となって子どもを育てる体制の構築を目指す

**学校運営協議会の活用**：地域住民や保護者が学校運営に参画し、信頼に応える開かれた学校づくりを推進します。

**社会教育との連携**：地域の教育資源や外部人材を積極的に活用し、特色ある教育活動を展開します。